企業隠蔽をさせない為の責任者へのＧＭＰ教育

講座主旨；

　まずは責任者が隠ぺいを行わないことである。なぜ隠ぺいを図ろうとするのか、それを行うことがさらに大きな問題になることを理解することになる。そして、部下に隠ぺいを行わせないためにどうするか。それには風土づくり並びに逸脱・異常を報告してくれた場合のマネイジメントの対応が大きく依存している。風土創りのためにどうすればよいかを紹介する

講座内容；

1. 偽造、隠ぺいの事例

・他産業の事例

1. 医薬品産業での偽造、隠ぺいの事例

・内部報告での製品回収事例

・厚生労働省の改善命令より

1. 重大な品質問題が生じた時の実際のマネイジメント対応例

・報告すると製品回収のリスク/報告しなければ製品回収はないとの狭間のジレンマ

1. 作業者が隠ぺいをした事例とその対応

・なぜ作業者は報告しない/隠ぺいするのか

・3H-5H教育

1. 地雷（品質問題）を埋めない、先送りしない、自爆を恐れない
2. 評価はその品質問題を起こした人であり、その時対応した人でない
3. 風土づくりの事例（よい風土がトラブルを減らす）
4. 人が創る品質（製造に誇りを持つ）